

栃木県支部だより

菊池 宏章

栃木県透析医会について御紹介申し上げます。
 (社)日本透析医会栃木県支部である栃木県透析医会のメンバーは県内の透析医療に携わる大学付属病院、国立、準公立、および私立の医療機関38施設です。

本会には会長1名、副会長3名、理事8名、監事2名の役員をおき、あわせて医療学術委員会と親睦委員会の2つの委員会が設置されています。

本会の目的は献腎移植の普及を推進し、腎不全の予防に務め、透析医療の充実と向上を図り、あわせて会員相互の理解と親睦を深めることにあります。

前述の目的を多少とも遂行するためにいろいろな方法とさまざまな機会を通じて栃木県透析医会は微力ながら努力しております。

本会の昨年度の具体的な活動を簡単に述べてみたいと思います。各役員を中心に全会員の絶大な協力のもとに次のような活動を行いました。

財団法人栃木県腎臓バンクと綿密に協議し一致協力して以下の活動が行われています。

- A) 毎年10月の腎臓移植推進月間のある日曜日に行政、民間団体、透析患者会、会員施設の医師、看護婦、臨床工学技士等の参加のもと県内3地区(5ヶ所)で腎臓移植推進街頭キャンペーンを毎年実施し献腎移植の普及につとめております。
- B) 県内全透析医療機関の多大な協力が得られて毎年年末(12月31日現在)栃木県人工透析

医療実態調査を実施しております。これは日本透析医学会が毎年末に実施する調査と一部重複する項目もありますが栃木県独自の調査データとしてまとめられていることに意義があるものと考えております。

また同時に毎年1年間で透析導入された患者さんについての透析導入時調査も施行しております。調査内容は性別、年齢、体重、身長、原疾患、血液生化学検査、末梢血検査、尿検査、クレアチニンクリアランス、心胸比、導入の直接の原因となった臨床所見等で導入時の患者さんの臨床像が詳細に把握できるようになっております。

このような調査を本格的に実施しているのは本県だけと聞いております。このデータも非常に重要で貴重なものと考えております。なおこの調査の詳細は私達が日本透析医会雑誌に報告しておりますので興味のある方は御参照下さい。

- C) 栃木県腎臓バンク、行政、県内の透析医療機関の協力で、災害時の栃木県透析患者援護対策の活動マニュアルの検討を行っております。

その他に腎不全の予防対策の一環として当会会員の率先した活動のもと医師会の諸先生方との協力で宇都宮市医師会腎臓検診委員会で腎不全予防教室の開催など患者さんおよび一般市民の方に役立つ貴重な活動をしております。

一方、栃木県は保険診療の審査の厳しい所

で、会員から指摘された保険診療上の理解に苦しむ不合理な査定に対する対応として当会の担当会員と審査委員との根気強い議論の結果、当会員の意見が御理解いただけたケースも多々ありました。

以上のような種々の活動の他にゴルフコンペ、新年会、研修会等を随時開催し、あわせて酒席で口角泡を飛ばすような議論等意見交換を行い

会員相互の信頼と親睦を深めて、人工透析医療の向上と発展、腎臓移植の推進と腎不全の予防に努力している昨今です。

上述のように当栃木県透析医会の活動は他の全国の支部に優るとも劣らない活動ができるのはひとえに有能な多数の会員の精力的な協力のお陰であると感謝しながらこのたよりを終りたいと思います。